

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	東 書 (東京書籍)	002-72、002-82、002-92
取扱内容 「学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等」	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 「0章 算数から数学へ」を設け、「九九表の決まりを見つけよう」という題材で全生徒が取り組みやすい課題を位置付け、算数で学習した数の四則計算と関連付ける。 第2学年～ 未知の二つの数量を x、y としてりんごとオレンジの値段を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く。 第3学年～ 一定の長さのロープ使って作った長方形の農園の面積と辺の長さの関係という具体的な問題解決を通して、二次方程式の必要性を理解する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 日本の伝統模様の「麻の葉」などを取り上げ、敷き詰めて描かれた模様から二つの三角形に着目して移動の意味を考える活動を通して、図形の移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 算数で学習した三角形の角の和が 180° であることを用いて、多角形の角について考えることを通して、多角形の角についての性質が見いだせることを知る。 第3学年～ 出初式における消防訓練の題材を取り上げ、はしごの先端が地面から届く距離を求める活動を通して、三平方の定理を具体的な学習場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ プールに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する。 第2学年～ 水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べる活動を通して、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現する。 第3学年～ ジェットコースターが坂を下り始めてから1秒ごとに進んだ距離の関係を通して、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 現在のチームと優勝時のチームの1500m 走の記録を収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。 第2学年～ 牛乳の販売数の傾向を読み取るために四分位範囲や箱ひげ図として表したりする活動を通して、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。 第3学年～ 「都道府県ランキング」について、一部の人だけに調査をしているという調査方法について考える活動を通して、標本調査の必要性和意味を理解する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習が取り上げられている。 第1学年～ 文字式の利用の学習において、本棚を作るのに必要な棒の本数について考える場面で、平面図形と同じように考えたり、本棚の作り方を変えたりするなど、統合的・発展的に考える活動 第2学年～ 式の計算の学習において、陸上トラックのスタート地点を決める場面で、日常生活の場面を数学化し、既習の知識・技能を活用し、問題を解決する活動 第3学年～ 三角形と比の学習において、四角形の各辺の中点を結んだ図形を考える場面で、一度解決した問題の条件を変えるとどうなるかを考え、統合的・発展的に考える活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 95P、図形 60P、関数 37P、データの活用 21P、その他 111P） 第2学年（数と式 40P、図形 58P、関数 33P、データの活用 24P、その他 105P） 第3学年（数と式 73P、図形 73P、関数 29P、データの活用 11P、その他 104P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後で、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ 1人1台端末を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現することができるように、授業で使えるデジタルコンテンツが豊富にある。（第1学年 623個、第2学年 505個、第3学年 626個） ○ 生徒が主体的に学習できるように「学び方のつながり」、「章のなかの題材どうしのつながり」、「問題発見、解決の過程」の三つのつながりで構成されており、ストーリー性のある題材構成で生徒の学ぶ意欲を高め、単元全体で解決できるようになっている。 ○ 個に応じた確かな学力を保証し、個別最適な学びが実現できるように、豊富な問題を設けたり、多様な見方・考え方を自覚できるようにしたりするとともに、チェックボックスを新設し、自己調整しながら学びを進められるようになっている。 ○ 「深い学びのページ」では問題発見・課題解決の過程を紙面化し、一連の活動が示されていたり、節末、章末、巻末の全問題の解答が掲載されていたりするなど、生徒が自学自習でき、先生方の働き方改革へ貢献できるような構成になっており、大変よくできている。 ○ 「Q（考えてみよう・調べてみよう）」では、「補助発問」を手掛かりに、生徒が既習を生かすことができるようにしたり、章の問題Aに章で働かせた見方・考え方を振り返ってレポートにまとめる「章のふり返しレポート」を新設したりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	大日本（大日本図書）	702、802、902
取扱内容 「学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等」	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つり合っている天秤にマグネットとおもりがのっているとき、マグネットの重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の二つの数量を x、y として写真と封筒の重さを求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第3学年～ 数当てゲームの計算の手順から方程式をつくり、いろいろな数を代入し、等式を成り立たせる文字の値を調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考える活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な校舎の高さを、理科で学習した光の入射角と反射角は等しいことを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 等速で走っている選手の走った時間と進んだ距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ 5 cmの高さまで水が入った容器に水を入れた時間と水位の関係を表で調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 人がもっている長さ測定の感覚のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。 第2学年～ 日本とイランのバレーボール選手の身長データを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。 第3学年～ 英和辞典1冊の中に掲載している見出し語の総数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動として、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習が取り上げられている。 第1学年～ 関数の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、速さが異なる3人の移動の様子について考え、表、グラフ、式から読み取れることについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ 平行と合同の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、星形の図形の角の和を求める方法について考え、多角形の性質を利用する考え方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 関数の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自動車の停止距離について考え、停止距離を求めるために必要なことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 99P、図形 66P、関数 36P、データの活用 22P、その他 88P） 第2学年（数と式 45P、図形 62P、関数 28P、データの活用 24P、その他 82P） 第3学年（数と式 73P、図形 68P、関数 28P、データの活用 13P、その他 111P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ 生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるよう「考えよう」を掲載したり、数学と社会とのつながりが実感できる「MATHFUL」を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高めている。 ○ 巻頭における数学の学習の進め方についての説明や、問題発見・問題解決の流れを示した活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組めることができるようになっている。 ○ 領域ごとに色を設定したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として「WEB マーク」(QR コード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 本教科書が令和2年3月2日検定済みの教科書のため、本教科書の調査研究報告書及び答申書は令和2年度に作成されたものを参考にした。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	学 図 (学校図書)	011-72、011-82、011-92
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つり合っている天秤にクリップと1円玉がのついているとき、クリップの重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の二つの数量をx、yとしてハンバーガーとジュースの値段を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第3学年～ 敷き詰める枚数が決まっている太陽電池の縦と横に並べた枚数の関係を表した方程式を立て、解を考える活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 段ボール箱をたたむ時の動きを平面図形に置き換えて考え、平行四辺形になるための条件を使って仕組みを考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な木の高さを、直接測定できる影の長さや鉄棒の高さなどを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 視力検査に用いるランドルト環の直径と視力などの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ 水を熱し始めてからの時間と水温の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ スキージャンパーの滑り降りた時間と距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数$y=ax^2$として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 落下する定規を使った「ルーラーキャッチ」のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。 第2学年～ メルボルンと東京の最高気温のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。 第3学年～ ある湖にいる魚の数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習の対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 作図の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、銅鏡の一部からもとの形を復元する方法について考え、円の中心の決め方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ いろいろな確率の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、条件を変えて考えた結果について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 円周角と円の接線の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、円の接線の作図の方法について考え、接線が作図できる理由について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 98P、図形 60P、関数 35P、データの活用 27P、その他 108P） 第2学年（数と式 44P、図形 59P、関数 31P、データの活用 28P、その他 108P） 第3学年（数と式 70P、図形 79P、関数 34P、データの活用 14P、その他 133P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 三角形の合同条件を使って証明の方法について理解する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ 巻頭に教科書を使った数学の学び方を掲載したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、QRコードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（第1学年 147 個、第2学年 89 個、第3学年 128 個） ○ 自然に出される疑問を提示した「次の課題へ！」や、課題を発見し、自分で学習を進めることができるようにする「見方・考え方」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 「さらなる数学へ」では、SDGsに関連した課題について考察したり、興味深い課題を取り上げるなど、日常生活に関する問題や環境に関する問題の解決に活かせるような工夫がなされている。 ○ 領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し小学校で学んできたことを振り返ったり、「tea Break」や「数学へのいざない」などで上位学年の内容にも触れることで、小中高連携できるよう工夫がされている。 ○ 章の学習の最後に「できるようになったこと」で、自己評価ができるようにしたり、「今の自分を知ろう」では、パフォーマンス評価として設定されているなど、ルーブリックによる自己評価を掲載するなどの工夫がされていることで、生徒の学習意欲を高めている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	教 出 (教育出版)	017-72、017-82、017-92
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つり合っている天秤に茶色の箱とおもりがのっているとき、茶色の箱の重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の二つの数量を x、y としてバスケットボールの3点シュートと2点シュートの本数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第3学年～ 一定の長さのロープを使って作った長方形の花だんの面積と辺の長さの関係を文字や次数に着目して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 合同な図形を敷き詰めて描かれた模様から二つの図形に着目して移動の意味を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 遊園地にある乗り物の動きを平面図形に置き換えて考え、平行四辺形になるための条件を使って仕組みを考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な木の高さを、直接測定できる影の長さや棒の影の長さなどを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 水そうに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例を具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ 水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を式で調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 $y = ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 羽の長さが異なる紙コプターの滞空時間のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。 第2学年～ 京都の年ごとの冬日の日数のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。 第3学年～ 袋の中に入っている白いビーズの個数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習の対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 正の数、負の数の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、平均の求め方の工夫について考え、グループで考えの相違点などについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ 一次関数の活用において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、印刷枚数と印刷料金の関係について考え、一次関数のグラフについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 平方根の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、短い辺と長い辺の関係について考え、どのような四角形で構成されているかについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 97P、図形 60P、関数 28P、データの活用 25P、その他 136P） 第2学年（数と式 43P、図形 66P、関数 30P、データの活用 25P、その他 114P） 第3学年（数と式 74P、図形 69P、関数 25P、データの活用 12P、その他 134P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ 章の導入課題「Let's Try」で日常の事象から数学的活動を始められるようにしたり、「数学の広場」で生徒の学習を深め広げるための話題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める特徴がある。 ○ 既習事項で定着していない内容を前ページで確認できる箇所や、「章のとびら」の中で、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を掲載するなど、個々への配慮があり、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ノートの書き方を例示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、1人1台端末を活用した学習活動として、「まなびリンク」（QRコード）を掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。（第1学年 214 個、第2年学年 123 個、第3年年 139 個） ○ 「数学しごと人」では、社会で活躍している方へのインタビュー内容を記載し、数学が実社会で役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるようになっているなど、キャリア教育としても利用できるような工夫がなされている。 ○ 巻末の「学びのマップ」で、算数の内容をいつでも振り返るようになっていたり、「まなびリンク」では、算数の教科書で使用されているアニメーションや動画を見ることができるようになっていたり、小中の連携が図られるような工夫がなされている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	啓林館	061-72、061-82、061-92
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つりあっている天びんに封筒とおもりがのっているとき、天びんがつりあう方法を考える操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の数量を x、y として鉛筆とノートの一つあたりの値段を求める方程式一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第3学年～ カレンダー上の数の関係から方程式を立てて、いろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 4回折った正方形の折り紙にはさみを入れて広げた模様の中にある合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 1点を共有する二つの正三角形の中にある平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な距離や高さを直接測定できる部分の長さや角度などを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 紙パックをトイレットペーパーにリサイクルするときの紙パックの重さとそこからできるトイレットペーパーの個数の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ ダムの貯水量と日数の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 2種類の紙による滞空時間の長さの実験 50 回分のデータを収集し、ヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し表現する。 第2学年～ 4社のインターネットの通信速度のデータを箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布を比較して読み取り、批判的に考察し表現する。 第3学年～ 図書室の利用に関する調査について、母集団の一部を標本として抽出し、標本の傾向から母集団の傾向を推定する活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 正の数と負の数の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、ペットボトルキャップの収集量の平均について考え、平均を工夫して求める方法について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ 文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、数に関するいろいろな性質について考え、文字を使った説明方法について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 平行線と線分の比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、三角形と線分の比の性質を活用する方法について考え、補助線の引き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 90P、図形 64P、関数 30P、データの活用 24P、その他 94P） 第2学年（数と式 40P、図形 60P、関数 32P、データの活用 24P、その他 82P） 第3学年（数と式 68P、図形 70P、関数 26P、データの活用 14P、その他 104P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 正の数と負の数の単元において、四則計算の学習の後に、数の集合や素因数分解の学習の構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 図形の性質と合同の単元において、平行線と角の性質を学習した後に、三角形や多角形の角の大きさについての性質を学習する構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 二次方程式の単元において、平方根の考えを使って解を求める学習のあとに、$(\text{二次式}) = 0$ の形から左辺を因数分解して解を求める学習の構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ デジタルコンテンツにアクセスできる QR コードが随所に散りばめられている。また、コンテンツの種類も豊富である。（第1学年 127 個、第2学年 100 個、第3学年 119 個） ○ 文章の改行を文節で行うなど、特別支援教育の専門家の監修のもとインクルーシブ教育に配慮している。 ○ フォントなどユニバーサルデザインへの取り組みがなされている。 ○ 家庭など学校外での学習活動においても考え方や答えを確認しながら自学で取り組めるような配慮がなされている。 ○ 巻頭に、教科書の使い方として、「表現する力の身につける視点」「深める力を身につける視点」「いろいろな場面で役立つ大切な考え方を身につける視点」など、思考力・判断力・表現力を身につける視点がわかりやすく記載されている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	数 研 (数研出版)	104-73、104-83、104-93
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つりあっている天びんに角砂糖とおもりがのついているとき、天びんがつりあう方法を考える操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の数量を x, y としてカーネーションとユリの1本あたりの値段を求める方程式一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第3学年～ 周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表した方程式を立てて、いろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 合同な三角形を敷き詰めて描かれた模様を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。 第2学年～ 2段重ねの工具箱のアームの取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な距離や高さを、直接測定できる部分の長さや角度などを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 回収したペットボトルキャップの個数と重さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ 水を熱したときの水温と時間の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 二つの市の最高気温の50日分のデータを収集し、ヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し表現する。 第2学年～ 二つのグループのハンドボール投げのデータを平均値の変化や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布を比較して読み取り、批判的に考察し表現する。 第3学年～ 英和辞典1冊にのっている見出し語の総数について、母集団の一部を標本として抽出し、標本の傾向から母集団の傾向を推定する活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 正の数と負の数の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、大縄跳びの練習記録の平均について考え、平均を工夫して求める方法について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ 文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、数に関するいろいろな性質について考え、文字を使った説明方法について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 平行線と線分の比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、三角形と線分の比の性質を活用する方法について考え、補助線の引き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 107P、図形 72P、関数 35P、データの活用 25P、その他 81P） 第2学年（数と式 58P、図形 66P、関数 37P、データの活用 32P、その他 77P） 第3学年（数と式 95P、図形 89P、関数 33P、データの活用 17P、その他 94P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 正の数と負の数の単元において、四則計算の学習の後に、数の集合や素因数分解の学習の構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 図形の性質と合同の単元において、平行線と角の性質を学習した後に、三角形や多角形の角の大きさについての性質を学習する構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 二次方程式の単元において、$(\text{二次式}) = 0$ の形から左辺を因数分解して解を求める学習のあとに、平方根の考えを使って解を求める学習の構成となっているなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ デジタルコンテンツにアクセスできる QR コードが随所に散りばめられている。また、コンテンツの種類も豊富である。（第1学年 114 個、第2学年 94 個、第3学年 105 個） ○ 後見返しに掲載されている「学びの自己評価」を活用し、自ら学習内容を振り返ることができるよう工夫されている。 ○ 小学校から中学校への学習の接続が円滑になるよう、内容の系統性を理解できるよう工夫されている。 ○ 全体的に余白が広めにとられており、教科書に書き込みやすくする工夫や、キャラクターの吹き出しや対話の場面など、自主学習の際でも多様な考えを得る事ができるよう工夫が見られる。 ○ 第1学年の作図の学習の場面では、たこ形の性質を活用して考えることができる教材が巻末付録に付けられている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の答申書

教科名 数 学

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	日 文（日本文教出版）	116-72、116-82、116-92
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ つり合っている天秤の両方の皿に同じ重さの物を加えたり取り除いたりするなどの操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 第2学年～ 未知の二つの数量を x、y として6個入りの箱と、2個入りの箱の個数を求める方法を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察して表現する。 第3学年～ 周りの長さが 20cm の長方形の長さや面積の関係を表した方程式にいろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 花壇を撮影した写真の情報を手掛かりに、撮影場所を見付ける学習を通して、基本的な作図の方法や意味を理解し、具体的な場面で活用する。 第2学年～ 2段重ねの箱の取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。 第3学年～ 直接測定することが困難な校舎の高さを、直接測定できる目の高さや縮図を使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 正方形の一辺の長さや周の長さの変化などの伴って変わる二つの量の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。 第2学年～ 水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表で調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。 ○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 高知市の3月の平均気温のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分析の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。 第2学年～ 福岡、大阪、東京の冬日のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて調べる活動を通して、データの分析の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。 第3学年～ 国語辞典1冊の中に掲載している見出し語の総数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 文字式の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、基石の総数を表す式について考え、図を使った解き方について話し合い、考えを広めたり深めたりする活動 第2学年～ くじの当たりやすさの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、樹形図等を使った解き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 三平方の定理の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、海岸から見える限界の地点について、直角三角形を見いだすことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動	

内容の構成・排列・分量等	第1学年（数と式 104P、図形 60P、関数 38P、データの活用 34P、その他 90P） 第2学年（数と式 50P、図形 70P、関数 36P、データの活用 34P、その他 76P） 第3学年（数と式 78P、図形 78P、関数 34P、データの活用 14P、その他 100P） ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 第1学年～ 基本の作図の学習において、垂線の作図の学習の後に、これまでの学習と結びつけて 45° の角を作図する学習を扱うなど系統的・発展的に学習できる。 第2学年～ 図形の性質と合同の学習において、三角形の角の学習の後に、補助線を使った角の大きさの求め方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。 第3学年～ 関数 $y=ax^2$ の性質の学習において、関数 $y=3x^2$ の学習の後に、比例定数を負の数に広げて考える学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できる。
使用上の配慮等	○ わかりやすく扱いやすい教科書QRコンテンツで学びの効果を高め、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードをレイアウトし、その上に「見る」「ためす」「身につける」「図形のまとめ」「調べる」「統計ツール」という分類を付記し使用上の便宜が図られている。（3学年合計 391 個） ○ 「わかる」「できる」を大切にし、基礎・基本を重視した構成になっている。生徒が苦手を克服するために、誤答に注意を向けるような吹き出しや理解を助けるためのアニメーションが用意されている。 ○ 巻頭の「学びに向かう力を育てよう！」では「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような態度なのかが生徒や保護者にも分かるように、具体例とともに明示している。 ○ 数学的に考え表現するための学び方をはっきり示しており、各小節の横欄「大切な見方・考え方」では、その場面で必要な「数学的な見方・考え方」を具体的に示すことで、数学的な見方・考え方を働かせながら数学的な活動に取り組めるようにしている。 ○ 「数学のたんけん」や「数学研究室」で、数学的活動の楽しさを実感できる課題学習を取り上げたり、問題の条件の一部を変えて新しい問題をつくる数学的活動の場面を設けたりするなど、生徒の学習意欲を高めている。
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。